

第3回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成 26 年 6 月 19 日（木） 18：30～ 20：30
- ◆ 開催場所 第 1 委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
副部会長 渡部 雅子
部会員 山田 正幸
稲葉 一彦
工藤 隆行
成田 育磨
堀井 貴之（市庁内検討委員会 部会長）
【総務部次長】
沼田 久人（庁内検討委員会 副部会長）
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 田中 寛志
川島 雅司
松本 崇之
- ◆ 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第 6 章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

◎部会長

前回まで皆さんの思いを聞かせていただき、今回から体系図に入っていくと思います。

初めて参加する部会員がおりますので、まちづくりに対する思いを聞かせていただいて本題に入りたいと思います。

◎部会員

推薦団体は登別、室蘭を一つの地域として広域的に活動しています。

私は室蘭出身ですが、登別は商業経済圏も室蘭と一体で、室蘭からの感覚で言えば一つのまちと感じていました。

結婚を機に大和町に引っ越してきましたが、一つのまちだと思っていたが、富岸子育て広場など、子育て施策が違ったり、地域のつながりを感じ、町内かでも大変よくしていただいて、登別に愛着が湧いてきている。

推薦団体で、まちづくり委員長を仰せつかっているが、室蘭が活動の中心であったが、登別の地域に特化した取り組みを行いたいと思っている。

自然などの地域資源もあるが、人材も資源であり地域にフィードバックしたい。

町内会も高齢化しているが、次世代を担う人材に受け継ぎがうまくできていないように感じる。

私の所属団体は政策的なものを考える団体ですが、現状としてついてくる人がいないため、町内会など、まちばにもっと出ていくべきと考えている。

個人的な思いとしては、自分の息子が救急搬送されたときに、資機材の問題や情報の伝達に問題があったことから、万全であったとしても難しかったのかもしれないと言うことは前提としながらも、乳幼児の救急搬送体制づくりに取り組めないかと思っている。

このまちをもっともっと盛り上げていきたい。

◎部会長

町内会では役員をやっているのですか。

◎部会員

今年班長デビューをしました。

◎部会員

私も町内会活動を行っていますが、若い人たちが多く住む地域と、高齢者が多い地区が分断されている地域のため、若い人たちをいかに巻き込むかが課題で、引き継ぎという言葉が使われていましたが、そのようなことを具体的にどうしようかということで、事業を組み立てて町内会に馴染んでもらおうと試みている。

◎部会員

班長は色々雑務がある。

ただ広報などを配付していると、あなたもやっているのなら、私もやらなくてはという声も聞く。

そのような効果もある。

◎部会長

色々な思いを聞かせていただいたことを踏まえて本題に入りたいと思います。それではたたき台となるものについての説明をお願いしたいと思います。

◎市庁内部会副部長兼事務局

今後、体系図のお話をしていきますが、配付した資料も多いですので、今後最低限度の資料を持ってきていただければいいのかについてですが、まず第3期基本計画案と体系の見直し調書、第2期基本計画についてはお持ちください。

この部会は第6章について話し合いをしていきます。

表に黒い太線を引いてあると思いますが、主要な施策から左側について検討していきますが、体系図だけでは具体的な部分が見えにくいことも考えられますので、主要な施策の考え方を見ていただくこととなりますし、さらに具体的なとなれば事業の欄についても見ていただくこととなります。

皆さんは主要な施策の考え方や事業名を読んでいただいて、話し合いをしていただきたい。

黒い太線から左の部分を見てほしいとはお伝えしていますが、主要な施策の考え方についても見ていただきたいと思っています。

手をつけなくていいというのは、細かな文章を直していただく必要はないとお伝えしているだけです。

庁内の部会も同様に検討しています。皆さんからの思いを庁内にフィードバックし検討していきます。

庁内検討委員会でも様々な検討を行っていますので、修正した箇所もございます。

場所と会議のメンバーは違いますが、同じテーマで同じ論議をしながら協議を進めていくのが今回のやり方です。

それでは第6章について説明をしたいと思います。

◎事務局

第6章について説明させていただきます。

第6章は「担い合うまちづくり」となっていて、政策として、「協働のまちづくりの推進」、「交流によるまちづくりの推進」を位置づけています。

一度に説明してしまいますと難しいと思いますので、1節「協働のまちづくり推進」の中の施策「協働の仕組みの構築」について、説明させていただきます。

登別市ではまちづくり基本条例というものを制定してまして、ここではまちづくりの基本的な理念ですとか、市民、行政、議会のそれぞれの役割が定義づけられ、こういうまちづくりを進めていきたいと思いますという、このまちの憲法のようなものが記載されています。

その下位、施策の基本的な方向には、「市民参画の場の整備」が位置づけられてまして、目標としては、市民と行政との情報共有を進め協働のまちづくり

を推進する」とされています。

市民参画の場の整備を実現するために、その下位に主要な施策が位置づけられ、「まちづくり基本条例の推進」、「役割分担と協働の調整」、「市民参加の場の提供」の3つがあります。

◎市庁内部会副部長兼事務局

まちづくり基本条例というものを皆さん見たことがありますか。

◎副部長

部会で協議する上で、まちづくり基本条例を理解しないと話が進まない
インターネットで調べてみたが、部会の皆さんで共通認識がないと進まない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

まちづくり基本条例の解説版がありますので送付したいと思います。

概要を説明しますと、市民が主体となってまちづくりを進める基本理念のよ
うなものであり、まちづくりの憲法みたいなものです。

元々最初に始めたのはニセコ町で登別市でも作成の機運が高まり策定しまし
た。

一番最後のところに市民自治推進委員会を設置するとあり、まちづくりを進
めていく上で市民憲章と並ぶ一つの指針です。

市民の責務、行政の責務、議会の責務、それぞれの責務を定めています。

市民自治推進委員会は基本条例が正しく運用されているかを確認しながら、
条例の改正が必要であれば条例を改正しようと活動をしますし、市の事務事業
を確認しようと言うことであれば、外部評価を行うこととなる。

市はこれまで市民自治推進委員会を設置していました。

設置していましたが、いろいろなことがあって今は解散しています。

行政は意見を言わず市民主体で取り組んでいただきましたが、理念を持って
お話する方、理念は持っているが周りの意見に耳を傾けない方など様々な方が
いらっしやいましたので、会議もなかなか楽しいものにはならず人が減ってし
まいました。

市民自治推進委員会は条例で設置しなければならないことになっていますの
で、1回目の全体会議の時にお伝えしましたが、この部会のような場を通じて
論議をしながら、基本計画を自ら作成し、計画の推進を図るとともに事務事業
を見ながらまちづくりを一緒にやっていきたい。

基本計画が完成した後、基本計画を見守って推進していく立場として市民自
治推進委員会というものを市民提案で行うべきではないかとお話しさせていた

できました。

まちづくり基本条例については、広報やセミナーなどでもどのようなものなのかお伝えさせていただいておりますが、普通の人が普通に暮らしていくには必要がないものと思います。

そのような内容を広く市民の皆様にも周知していくと言うことが難しいところです。

◎部会員

まちづくりとは何なのかといつも思う。

決してものを作るわけではない。

条例にも当たり前のことしか書いていないので、なかなか理解できない。

登別のまちづくりは何を目指すのか、人を集めるのか、産業を集めるのか、観光客を集めるのか、方向性がわからない。

◎部会員

登別のまちをどのようにするのがないといけない。

協働のまちづくりとはなにか、冠に協働のまちづくりと書いてあるだけで行政の職員がどれだけ協働のまちづくりを理解しているのか、市民がどれだけ理解しているのか。

協働のまちづくりであることをいいことに、何でも市民に押し付けているのではないかという気持ちがある。

例えば協働のまちづくりを行うことで、行政がこれだけ改革できた。

市民に任せることで市は財政的にメリットがあつてこれだけ改革できたと言うことが大切だと思う。

市民はその部分が見えないので、一方的に仕事を押しつけられとってしまう。

そうした部分を基本計画の中で示していかないとけない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

6章は理念的なものが多く、実務的なものが少ない。

1章であれば具体的な福祉施策がイメージできるが6章はない。

この章はまちづくりの根幹となる考え方を示す章となり、精神論を述べている。

協働とは何か、まちづくり基本条例は我々の生活にどのような影響があるのか、そもそもいるのかということをお話したい。

まず考え方がどうなのか、協働というものを一つで定義してし舞うのは危険

だと思いますが、こうあるべきでないのかとすることを共通認識し提言する必要がある。

行政はそれを受け止めて、前文で書いていくとか、体系図で表現するとかしていきたい。

そもそもまちづくりとは何なのかということも大切だと思います。

まずは体系図を題材に大きな部分の話をしていった方がいいと思います。

十分時間をかけるべきだと思います。

最後の段階で例えば協働の定義がずれていたのがわかっても手遅れです。

いろいろな人が、いろいろな思いでここに来ています。

なので一つには固まらないかもしれませんが、それもいいのだと思います。

それは市民部会の特徴だと思いますが、できるだけ皆さんで調整したものを作ろうねと思っています。

◎部会員

まちづくりは人づくりから始めなければならない

若い人は参加しないと言っているだけで引き継がれているのか。

行政は協働のまちづくりをするためにまちの中心となる人を集めて議論をしたことがない。

はじめの段階で若い人を表に出すためには、若い人たちに教育とか指導をしなければならない。

協働が進んだまちに連れて行って研修することが必要。

連合町内会が海老名市に入った時、共通する問題として会員をいかに増やすかというテーマになった。

海老名市は町内会加入強化月間を作って、みんなで加入促進をする。

そういうことはほかのまちを見てみないとわからない。

海老名市は42歳で連合町内会の副会長をやっている。

なぜと聞いたら輪番で町内会長をやらされて、やればやるほどやりたいことが出てきた。

そういう人はいるんだと思う、行政がどうやって発掘するのか、どうやって育成するのがまちづくりに必要である。

◎市庁内部会副会長兼事務局

市民側はどういう努力するのか

◎部会員

行政側が人選して研修させて、そういうことで協力できる。

◎部会員

まちづくりはひとづくりだと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

同じ考えだと思います。

そのようなことから協働のまちづくりセミナーなどを開いている。

そこから理解してもらって、きっかけ作りをしている。

◎部会員

人口が減っているというが、若い人が魅力を感じて移住してもらうためには、何をしていくか。

行政は人口減を前提に考えている。

具体的なものを基本計画にどう反映していくのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

条例とは何かという話をしますが、法律がありますが、都道府県や市町村が法律の範囲内で条例というルールを作ることができます。

細かくそのまちをどうしていくのかとすることを定めることができ、まちのために作ることができます。

条例の性質を分類すると2つに分けることができ、まちづくり基本条例の様に理念的なもの、制限条例となります。

基本条例は理念条例でこれに従わなかったからと言って罰則はないものです。

基本計画というのは市がどういう風に展開していこうかというものなので、市民に制限をかけるものですか、市民にこういうことをさせますということは書けません。

行政としてできないからです。

行政としてできることしか書けないというところが歯がゆくもありますが、仕方がないことと思います。

◎市庁内部会部会長

事業の話をするのではなくて、事業を乗せる皿を作ろうと思っています。

◎部会員

皿を作って材料をのせるのは誰がやるのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

市民と行政がやります。

◎部会員

この検討委員会をずっとやらなければならない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

そのために自治推進委員会に移行すべきではないのかなと提案しています。

◎部会員

基本計画は乗せる皿を作るもので、その上に乗せるごちそうはみんなが協働のまちづくり、まちづくり基本条例に基づいて、自治推進委員会が決めていく。

◎市庁内部会副部長兼事務局

協働という言葉は行政は都合よく使っていると言うことはよく聞きます。

行政がお金を削りたいから協働の名の下に市民にやらせていると言われる方はいらっしやいます。

そのような協働はいらないと思います。

社会一般で言われる協働はそれぞれ市民と行政と議会が役割分担をした中で、自分の得意な分野をしっかりとやることで同じ目標に向かってがんばりましょうということ、その同じ方向は、このまちを良いまちにする、住みよいまちにする、みんなが仲良く元気で過ごせるまちにするというのが、協働の目標だと思います。

そのためにそれぞれが何をすれば良いのかが責務と記載されています。

極端な話をすると、お祭りをやるから行政も来てやれば良いんだというのは、これは無理があります。

お祭りをしようと思うんです、草刈りをしようと思うんですという時に、実施は地域でやっていただきますが、行政は支援をやりましょう、議会はそのような取り組みをしっかりと認識しながら、行政を質すなど、そのような役割分担が協働のまちづくりだよとされています。

◎部会員

それはわかりますが、一般社会的に何が問題かという、空き家問題、要介護1、2は介護保険から切られるので地域で見守りしなければならないですか、観光の基幹である温泉に市民がどのぐらい関心があるのかですか、それで鬼踊りの参加しようとして事業を行ったが50周年が終わったのでこれで終わり

ですというのが行政の言い方で、継続しなければ意味がない。

行政が考えていることは全くナンセンスで、協働のまちづくりを考えていることは思えない。

そのような中で、文言だけ立派なことを書いても具体的に何をやるのかと思う。

そこまで考えなくて良いんですと理念ですとなると、我々の考え方が一致しない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

さらに良くしようとするためにはどうしようという会話がしたい。

◎部会員

この基本計画では皿を作るんです、その上に乗せる料理はこの後継続して自治推進委員会に移行するんですと言うことがはっきりすればかまわない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

前回の自治推進委員会は行政が作ったと言われてきたので、今度はそうしたくないと思っています。

こういった場で会議を続けることで、俺たちがやるんだという意識を持って行政に提案してほしいと1回目の会議でお伝えしました。

是非そうなってほしいと思っています。

皿の上の料理を作っていくのも、基本的には理念や方向性は基本計画を策定して示しましたよと、この基本計画に基づいて、行政は事業を盛っていくこととなる。

事業、料理を作るときに食べる側の意見を聞かなければならないものであれば意見を聞きます。市民自治推進委員会の意見が必要であれば意見を聞く、一定程度の期間が経過し、基本計画についての進行状況を行政に説明しろではなくて、自分たちで勉強して、意見交換しようというのが対等な状態だと思います。

一方的に説明を求めるとか資料を求めるといのは対応ではないと思います。こういう風にあるべきだと思います。

◎部会員

条例なんてどうでもいいと思う。

何をやるかであって、こんなもの見直しする必要もないし。

◎市庁内部会副部長兼事務局

料理の方は、これで良いのかとか、この作り方で良かったのかとか、この種類で良かったのかというのは、この基本計画ができた後も市民自治推進委員会が自分たちで状況を見ながら、主体的に考えてもらいたいと思いますし、協働が進展すると思います。

◎部会員

人口が減るからそれに見合ったまちを目指すのではなくて、人口が減らないためにはどのような取り組みをするのか、どういったまちを目指すのかの絵を描かなければならない。

その方向性が決まれば、基本計画ができて、市民の思いも具現化できると思う。

◎市庁内部会部会長

基本計画の上位には基本構想があります。基本構想を一度読んでいただきたいと思う。

この基本構想をもとにその体系を6分割し、我々はそのうちの6章を議論しているが、理念的な部分となる。

◎市庁内部会副部長兼事務局

6章はそれ以外の章で所掌する保健福祉だとか教育だとか色々な事業を実行していく中で、根底に流れている考え方は協働なんです、というところを定義づけていきます。

協働のまちづくりを推進するのは駄目だという人はあまりいないと思いますが、協働とは何なのか、その仕組みを構築しなければならない。

協働の仕組みを構築するためには、何が必要なのかと考えていくことで、基本計画を策定していくことになります。

協働というのは、進めるためには何が一番必要なのかというところをみんな協働していかないと、体系図には行き着かないと思う。

「協働とはなに?」、順番は微妙ですけどその後に「まちづくりとはなに?」ということ、皆さんそれぞれ違う思いがあると思いますので、お話していきたい。

◎部会員

地域の問題を地域の代表が行政と直接に話しあうことができ、解決できることが最高の協働のまちづくりだと思う。

昔は議員がその役割を担っていた。

それを直接できるようになると言うことが、まさに協働のまちづくりだと思う。

ただし、市民は全てボランティアという訳にはいかない、やるからには多少の見返りが必要だと思う。

◎市庁内部会部会長

今おっしゃられたことは地方自治の根幹だと思います。

時代とともに地方自治は変化しているし、答えは出ないのかもしれない。

今の時代にふさわしい、民主主義、地方自治のとらえ方が協働だと思います。

イメージを統一させて、未来に向かっていく協働を理念的ながらしっかり考えていきたい。

◎市庁内部会副部長兼事務局

現在、市では、新たな除雪体制を協働により構築しようとしているが、これは皆さんにとって協働と感じるのだろうか。

◎部会員

協働による取り組みだと思う。

ただし、市民は除雪をするのは行政の仕事だと思っている。

協働ですので、自分たちでできるところは自分たちでやろうと思いますが、実施する人が特定の人になっていくと、そのうちにどうして自分だけなのかと馬鹿らしくなってしまう。

弁当代、お茶代ぐらいは貰えないと継続は難しいと思う。

そのようなどころまで考えたないと申し入れは受けられない。

また、業者に頼むよりこれだけ財政効果があると教えて貰えたり、その財政効果の半分でも市民に還元しますなどしていただけないと、協働は進まない。

◎部会員

この計画は将来のこのまちがどうあるべきなのか描くものとしたい。

そこまでは無理だと言うことであれば、今後も継続して検討していく市民自治推進委員会をこのメンバーで継続できれば良いと思う。

◎部会員

結局のところは当事者意識だと思います。

また、なぜ行動するのかという危機意識が行動につなげるのだと思います。

例えば、10年後には子育て手当が減額されるので、自分たちで行動しなければいけないんだよとなれば、やっぴいこうとなる。

危機意識を開示していくことが必要なのではないか、だから住民自治をしなければならぬ、なぜ行動に移せるかは危機意識だと思う。

◎部会員

登別青年会に参加していて、協働についてもお話しさせていただく機会がありますが、先ほど雪かきの話がありましたが、市から補助を出してもらえというのがありまして、その中で困った話なのですが、本当に体の不自由な方がいる家はどこなのか知る方法が難しいです。

雪かきしてほしいという声はいただくのですが、そのような世帯に限って、元気な世帯員がいるのに声を出す人がいます。

そこあたりの設定も民間で考えなければならないのかなと思います。

◎部会員

協働の意味を植え付ける何かがあってもいい。

◎市庁内部会副部長兼事務局

危機感というお話があったが、なぜ協働が必要なのかということですが、潤沢な税金を市が持っていて、潤沢な財源の中で、すべてかゆいところに手が届くぐらい行政が全部やるのであれば、協働というものが必要なのか考える必要がありません。

これは市民自治推進委員会でもよく言っていましたが、すべて行政がやりますので、協働はいりませんか、行政がすべてをカバーする中で豊かな生活を送るということで良いですかと聞くと、疑問を感じながらもそれもありかもしれないということでありました。

でも、そのようなまちはあり得ない訳で、限りがある中で限りがあることしかできませんので、より快適に生活するためには自分たちでやらなければならない、お金を出さなければならない。

それは協働の必要性の一つだと思います。

自分一人でやれば良いのか、自分一人ではできないから地域で担えば良いのか、もっと大きな組織でやれば良いのか、そこに必要性が出てくると思います。

そこは行政と市民と議会でいろいろタッグを組み合わせながら、より住みやすい生活を作るために協働という概念を持ちましようと思つてます。

◎部会員

「負担はしたくないけど」がまず先にありますが、負担はしてもいいけどこのくらいのサービスという意識付けが必要。

北欧は基本的に高福祉、高負担、今の日本は高福祉、低負担では、行政は参ってしまう。

◎市庁内部会副部長兼事務局

これからの将来のまちづくりはどんどん人が減っていく、どんどん高齢化していく、協働の考え方を考えていかないと、まちを賄うことが難しくなる。

◎部会員

登別市が人口を減らさないために、どのようなことをしていかないのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

人口を単純に増やそうというのは、誰が考えても難しくおそらく国レベルで取り組むと思います。

でも登別だったら住もうかなと思えるようなことに取り組まなければならない。

◎部会員

温泉のまちと言うけれど市民は何の恩恵も受けていない。

少なくとも温泉の上がり口にファミリーランドを作って、家族が一日500円ぐらいで風呂に入ってゆっくり出来る場所がないと駄目だし、なんでやろうとしないのか、ただ人口が減るのはどうしようもないことだと言わずに子供一人産んだら10万円あげます、2人目は50万円です、3人目は100万円あげますと言えば、若い人で3人目ががんばろうかとなる。

◎部会員

うちの娘に登別に帰ってこないかと聞けば、働く場所があるのかと言われる。

◎部会員

昨年、室蘭市で、向陽中学校の後地に複合公共施設を建設するワークショップに中学生が参加し、自分のアイデアを出すわけですが、最初のうちは高校を卒業したらこのまちを出るがということでしたが、ワークショップに参加する中でアイデアが形となり、自分たちが考えるものが形になることで、自分は大学は他のまちに行きますが、自分が考えた公共施設がここにあるので帰ってき

ますと言ってくれました。

雇用もそうですけど、ソフト面もとても大切に、このまちに愛着がある、自分のアイデアが形になったまちというのが心に残るのだと思う。

◎部会員

このような会議に小中学生を参加させるのも良いのかもしれない。

◎部会員

自分の話になってしまいますが、そういった理由で登別に戻ってきました。

昔のイベントでマリパークでフラワーパレットジュニアに参加して、札幌の大学に行ったが、それが心に残っていて登別市に就職したいと思った。

働く場所がないわけではないと思います、どれだけこのまちに愛着があるか、どれだけこのまちにいたいかだと思います。

◎副部長

愛着は若い人たちだけのものではなくて、私にもあります。

東京に移住した後、北海道に戻ろうとなったとき、夫は伊達に住みたいといいましたが、私は向こうに住んでみて、登別の温泉のお湯がいかに良いものか、外から見て初めて分かった。

向こうに住んでいるとき、登別温泉のパンフレットを持って、宣伝して歩いたぐらいです。

自分のまちだったところに愛着が湧いて、登別に帰ろうと思った

自分のアイデンティティもあるが、温泉のお湯をとおして自分のまちをもっと好きになったということがあります。

今は観光ボランティアをしていますが、自分の待ちに誇りがあるからです。

これは帰ってきてから感じたことです。

お年寄りも含めて、自分まちを好きになるきっかけに出会えるか、無い人にチャンスを与えられるかが大切だと思う。

◎部長

ここに住むということの意味は、登別の郷土史を自分で作りたいと思っている。

子供たちに、登別、登別というのはこんなすばらしいところ何だと示していきたい。

そのためには色々な知恵をつけないといけないということで、このような場に出てくるのもそういう思いを地域の人に理解してほしいと思っている。

子どもたちに夢を持たせるようなまち登別でありたいと思いますし、結果としてどうなるかわかりませんが、人口減に少しでも歯止めになればと思っています。

そのことだけが全てではないと思いながらも、大切なことだと思えます。

まちづくりとは何だろうと最初の頃からのテーマですが、僕はそこまで深く考えないで、自分の住んでいる場所を良くしたいというのは誰しもが思っていることで、それを自分で出来ることは自分でやっているだけで、深い思いでやっているのではない。

国道に花を植えるなど環境整備であったり、カラス対策でゴミステーションのボックス化であったり、イベントは地域の人の盛り上がりと考ええると多くの人が集まって、何かをやるというのも必要になるのだろうと思う。

自分の自己研鑽という思いでいろいろやらせてもらっているが、最終的には市民力であって市民自治推進委員会かも知れないが、これから協働のまちづくりを前提で考えた場合に、登別市民力というのを持たないと協働の感覚は醸成されないと考えている。

◎部会員

この登別のまちをどのようなまちにしようかが無いと、理念とは言ってもなかなか出てこない。

結局は行政が書いたものに色を付ける形で終わってしまうのでは、意味が無いと思う。

今の話を聞いていると、魅力を感じるまち、愛着を持てるまちにすべきだということですし、自分たちが手がけたまちに愛着を持てるということですので、実際の事例でお話しいただいておりますし、そういったことを念頭に置いた上で、このまちをどうしたら良いかを考えたい。

◎部会員

コミュニケーションがとれているかが大切だと思う。

町内会でも二声掛け運動を行っていて、「おはよう」の後に何かを付け加えることで、どんどん広がっていく。

協働のセミナーを行うので来てくださいと言っても、なかなか参加できない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

理念をきっちり整理することで、自分たちの思いが反映できるということでも良いと思います。

まずは基本計画で明確に示すのかということ、検討したい。

協働とは何かと言うことを今日はお話ししてきましたが、一回で終わる話で無いと思いますし、まちづくりに関わる市民だけが得になるという政策も行政として進められませんし、まちづくりに関わらなければ駄目だという考え方も危険だと思います。

出来る人がまずやりましょう、ただ出来る人がボランティアで苦勞するの可以说是それもまた違うと思います。

次回も協働とはの話になるのかもかもしれませんが、今日話し合ったことを各自振り返っていただいて、今日参加されていない方のお話を聞いてみたいと思います。

◎部会長

次回の開催ですが、7月1日（火）で、その次の開催は17日（木）でよろしいでしょうか。

それでは、これで終了したいと思います。